



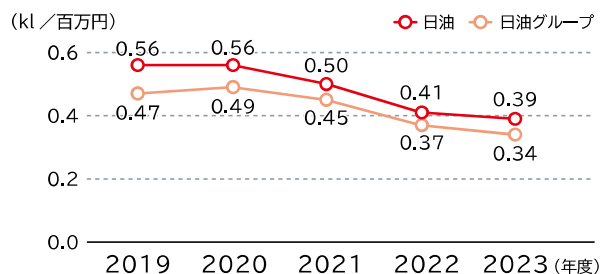
# 気候変動への対応 (TCFD) | 温室効果ガス削減の取り組み状況 / 排出量

GRI 302-3,4/305-1,2,4,5

## 省エネルギーへの取り組み

2023年度の日油グループの原油換算エネルギー使用量は、2022年度比6.5%減の75,061klとなり、売上高原油換算エネルギー原単位は、2022年度比8.4%減の0.34KL/百万円となりました。工程改善やスチームトラップの交換による蒸気使用量削減などの省エネルギー活動に取り組んできました。加えて、売上高の伸長が、売上高原油換算エネルギー原単位の改善に影響していると評価しています。

### 売上高エネルギー原単位の推移



## 再生可能エネルギーの取り組み (国内)

日油グループの再生可能エネルギーの取り組みは、2018年に川崎事業所、2020年11月に日油技研工業㈱に太陽光発電設備を導入し、生産活動に使用する電力の一部を再生可能エネルギーで賄い、低炭素社会に向けた取り組みを進めています。

### 太陽光導入実績

川崎事業所

$$10.4\text{kW} \times 4.5\text{H} \times 365 = 17\text{MWh/年}$$

日油技研工業㈱

$$12\text{kW} \times 4.5\text{H} \times 365 = 20\text{MWh/年}$$

関西地区社宅

$$10\text{kW} \times 4.5\text{H} \times 365 = 16\text{MWh/年}$$

DDS愛知 (計画)

$$\text{製造棟}83\text{MW} + \text{品保棟}11\text{MW} = 94\text{MWh/年}$$

## バイオマス燃料の活用によるCO<sub>2</sub>削減の取り組み

パーム油の生産地のインドネシアに所在するPT.NOF MAS CHEMICAL INDUSTRIESでは、バイオマス燃料である搾油後の廃棄物であるパーム椰子殻 (PKS) をボイラーの燃料として活用し、CO<sub>2</sub>排出量の削減に取り組んでいます。



バイオマス燃料 (パーム椰子殻)



バイオマス燃料を用いたボイラー